

# 日本学校心理学会 第21回千葉大会

「新たな時代の学校心理学—子どもを支える「和」のちから—」

## 1. 会期

令和元年 12月7日（土曜日）・8日（日曜日）

## 2. 会場

聖徳大学（千葉県松戸市岩瀬 550）

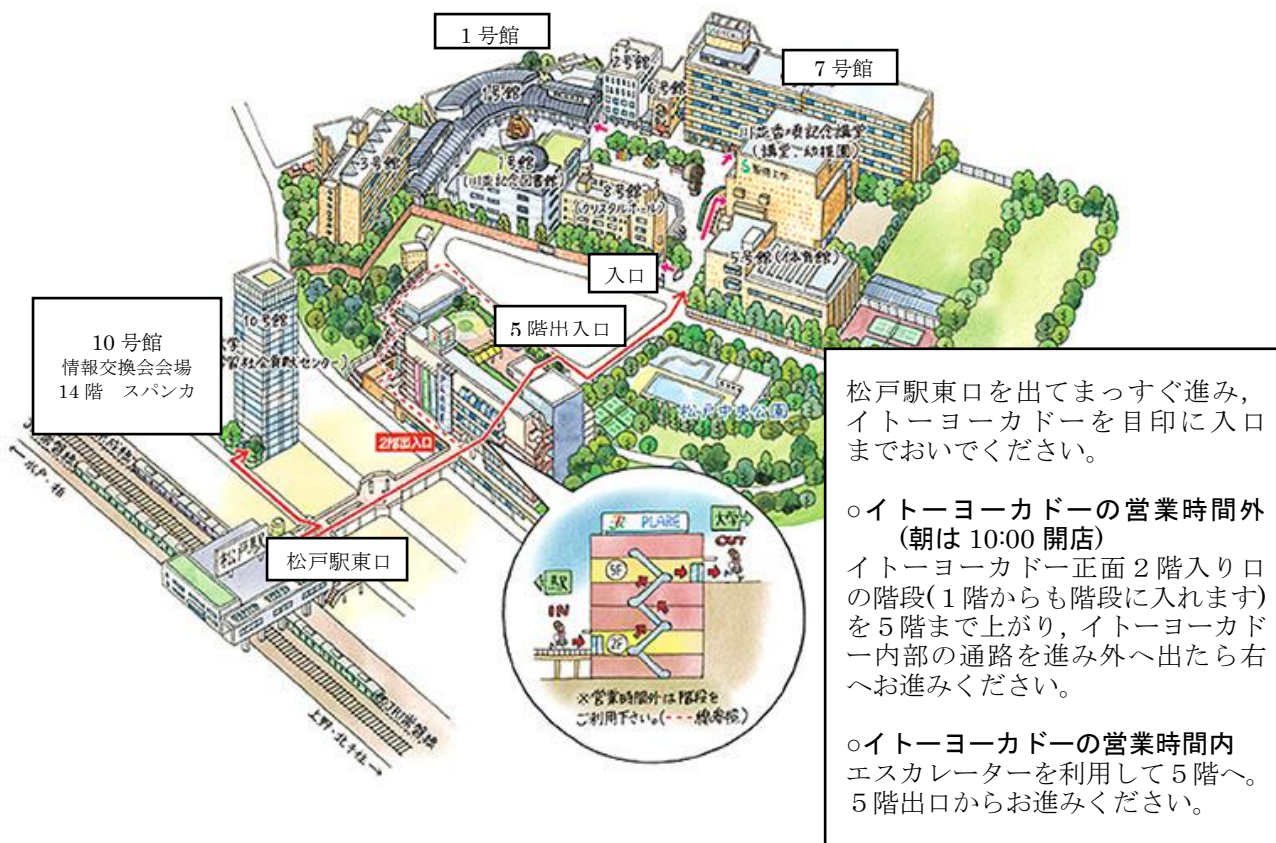
「松戸駅（JR 常磐線・千代田線・新京成線）」から徒歩約 10 分

※駐車場等はありませんので、公共交通機関をご利用いただき、お車でのご来場はご遠慮ください。

### 松戸駅からのアクセス

※ 12月7日（土）の受付は7号館1階となります。

※ 12月8日（日）の受付は1号館入り口となります。

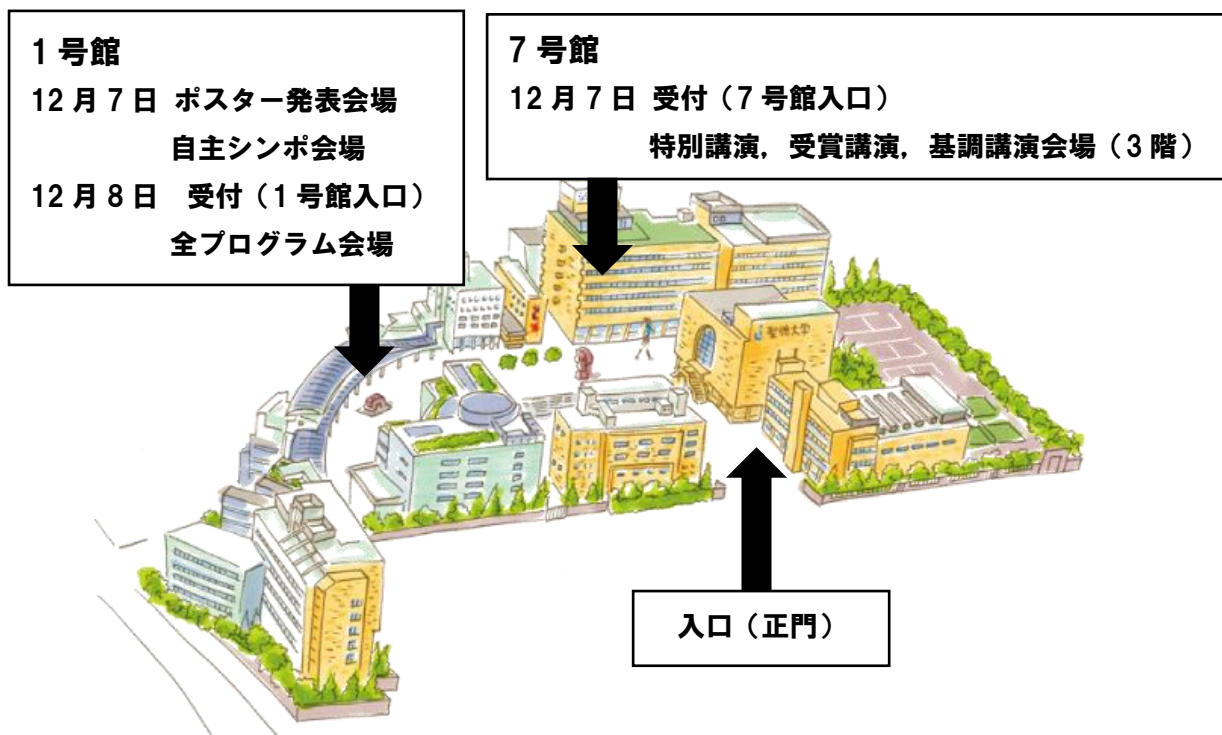


※アクセスの詳細は聖徳大学 HP をご覧ください

聖徳大学 HP : <http://www.seitoku.jp/univ/>

アクセス : <http://www.seitoku.jp/univ/access.shtml>

### 3. 会場案内図



※下記の通り、クロークをご用意いたします。

スペースに限りがありますので、お荷物のみお預かりいたします(コート等の衣類はお預かりできません)。予めご了承ください。

場所日時：12月7日(土) 7号館3階(7310教室) 9:15~18:30  
 12月8日(日) 1号館B1階(教室未定) 9:15~16:30

#### 【施設内会場】

	12/7(土)								12/8(日)							
	10:15	10:30	11:30	12:30	13:30	15:30	16:00	17:00	18:00	10:15	12:15	13:00	13:45	14:00	15:00	16:00
<b>7301教室 (7号館3F)</b>	開会挨拶 特別講演 受賞講演			基調講演												
<b>1219教室 (1号館2F)</b>							自主シンポジウム①		教育講演①			企画シンポジウム				
<b>1051教室 (1号館B1F)</b>																
<b>1054教室 (1号館B1F)</b>																
<b>1055教室 (1号館B1F)</b>																
<b>1062教室 (1号館B1F)</b>							自主シンポジウム②									
<b>1063教室 (1号館B1F)</b>							ポスター発表					ポスター発表				
<b>1060教室 (1号館B1F)</b>	<b>大会本部</b>															

※ 12月7日(土)は聖徳大学の授業日となっております。

※ 12月7日(土) 18:30~ 聖徳大学10号館14階にて情報交換会が行われます。

※ 会場が変更になる場合もございます。変更の場合、当日お知らせいたします。

## 6. プログラム

受付時間を 9:15～に変更いたします。

### ●12月7日（土） 9時15分～20時30分

9:15	10:15	10:30	11:30	12:30	13:30	15:30	16:00	17:00	18:00	18:30	20:30
受付	開会 挨拶	特別講演	受賞 講演	昼食 休憩	基調講演	移動	ポスター 発表①	ポスター 発表①	移動	情報 交換 会	
								自主シンポジウム			

### ●12月8日（日） 9時15分～16時00分

9:15	10:15	12:15	13:00	13:45	14:00	15:00	16:00
受付	教育講演会 教育講演Ⅰ 教育講演Ⅱ 教育講演Ⅲ	昼食 休憩	総 会	移動	ポスター 発表②	ポスター 発表②	実行委員会企画 シンポジウム

## プログラム1日目 12月7日（土）

### (1) 特別講演 10時30分～11時30分

会場：7301 教室（7号館 3F）

講師：毒蝮 三太夫 先生（俳優・タレント・聖徳大学客員教授）

演題：『まむし流元気で長生きするコツさせるコツ』

※本講演は市民向け公開講座として開催いたします。

※学校心理士資格更新のポイント(B1ポイント)が取得できます。

「特別講演」「受賞講演」(11時30分～12時30分) すべて参加で B1(1ポイント)となります。

ポイント取得の場合、遅刻や早退は認められません。

### (2) 平成30年度石隈利紀学校心理学貢献賞受賞講演 11時30分～12時30分

会場：7301 教室（7号館 3F）

講師：柏 頼英 先生（茨城県学校相談研究会 平成30年度受賞）

※学校心理士資格更新のポイント(B1ポイント)が取得できます。

「特別講演」(10時30分～11時30分)「受賞講演」 すべて参加で B1(1ポイント)となります。

ポイント取得の場合、遅刻や早退は認められません。

**(3) 基調講演会** 13時30分～15時30分

会場：7301 教室（7号館 3F）

講師：石隈 利紀先生（日本学校心理学会理事長・東京成徳大学教授）

講演テーマ：『新しい学校心理学：一人ひとりの子どもと援助者の多様性を活かす』

講演の概要

考え方、働き方、生き方が多様化するなか、学校教育は一人ひとりの子どもの多様性や援助者の多様性を活かすシステムや方法を模索し始めている。心理教育的援助サービスの理論と実践の体系である学校心理学は、一人ひとりの子どもの学校生活の質（QOSL）の充実をめざしてさらなる改革が求められる。そのために、チーム学校で子どもの援助者をつなげ、公認心理師の誕生を機会として学問（教育心理学と学校心理学、心理学と教育学）を重ね、そして新しい学習指導要領のもとで活動（学習指導・生徒指導・教育相談・キャリア教育、特別支援教育）を合わせることで、チャレンジすべき課題となる。具体的には、授業のユニバーサルデザイン、不登校のキャリア教育、外国につながるのある子どもの援助などをとりあげる。

※ 学校心理士資格更新のポイント(Aポイント)が取得できます。

ポイント取得の場合、遅刻や早退は認められません。

**(4) 自主シンポジウム** 16時00分～18時00分

2件の発表が予定されています。

会場 S-1：1219 教室 S-2：1062 教室

※演題一覧及び発表を予定されている先生方へのお願いは、後のページ（p. 7）に掲載しています。

**(5) ポスター発表①** 16時00分～18時00分

会場：1063 教室（1号館 B1F）

36件の発表が予定されています。

ポスターの掲示、責任発表者の方の在席及び発表、質疑応答をもって発表したこととなります。

積極的な交流をよろしくお願いいたします。

**在席責任時間：奇数番号 16:00～17:00 偶数番号 17:00～18:00**

※演題一覧及び発表を予定されている先生方へのお願いは、後のページ（p. 8）に掲載しています。

**(6) 情報交換会(懇親会)** 18時30分～20時30分

会場：聖徳大学 10号館 14階 スパンカ

当日申し込み可 会費：5,000円

## プログラム2日目 12月8日(日)

### (1) 教育講演会 10時15分～12時15分

- ※ 教育講演会は3つの分科会で行われます(事前登録不要)
- ※ 学校心理士資格更新のポイント(Aポイント)が取得できます。  
ポイント取得の場合、遅刻や早退は認められません。

#### 教育講演Ⅰ 会場：1219教室(1号館2F)

講師：池田 裕一 先生(昭和大学医学部小児学講座 教授)

講演テーマ：『医療現場における発達障害支援と合併症としての排尿障害』

講演の概要

発達障害の子どもたちは、友人関係や学校生活などに困難感を抱えており、強いストレスを感じていることも少なくありません。そのため、早期に発見し、適切な治療を行うことが重要です。治療には薬物療法と発達支援(療育)があり、医療現場では主に薬物治療が行われています。また、発達障害の約40%に頻尿や尿失禁などの排尿障害を合併します。排尿障害を合併すると、児童の自尊心やQOLにより強い悪影響を与えます。本講演では医療現場における診断から治療までの支援の流れと、合併症としての排尿障害の問題に焦点を当てて概説します。

#### 教育講演Ⅱ 会場：1051教室(1号館B1F)

講師：濱口 佳和 先生(筑波大学人間系 教授)

講演テーマ：『児童・青年の攻撃性と予防教育』

講演の概要

前半では、子どもの攻撃行動について、その概念、測定法、形成要因、仲間関係、心理社会的不適応との関連などについて、内外の理論と実証的研究に基づいて論じる。後半では児童・青年の攻撃性を適正化するため有効性が実証されている予防教育プログラムとその効果について、主に米国で実施されたFast Trackプログラムを中心に紹介し、我が国におけるいじめ問題に対するアプローチについて論じる。

#### 教育講演Ⅲ 会場：1054教室(1号館B1F)

講師：伊藤 亜矢子 先生(お茶の水女子大学 基幹研究院 准教授)

講演テーマ：『子どもが育つ学級づくり』

講演の概要

学級は子どもの居場所であり成長の場です。新しい指導要領では、関わり合って学ぶアクティブラーニングが必要とされますが、そうした関わり方の基盤となるのも、学級であり、その風土ではないでしょうか。学級風土アセスメントとコンサルテーションを行ってきた立場から、また、スクールカウンセリングや臨床心理学の視点から、子どもにとっての学級や、子どもが育つ学級づくりについて参加者の先生方と一緒に考えたいと思います。

## (2) 総会 13時00分～13時45分

会場：1055 教室（1号館 B1F）

今後の学会運営を決定する大切な会です。会則に基づき、各種表彰も行う予定です。  
会員の皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

## (3) ポスター発表② 14時00分～16時00分

会場：1063 教室

35件の発表が予定されています。

ポスターの掲示、責任発表者の方の在席及び発表、質疑応答をもって発表したことになります。  
積極的な交流をよろしくお願ひします。

在席責任時間：奇数番号 14:00～15:00 偶数番号 15:00～16:00

※演題一覧及び発表を予定されている先生方へのお願いは、後のページ (p. 12) に掲載しています。

## (4) 実行委員会企画シンポジウム

会場：1219 教室

講演テーマ：『公認心理師科目「教育・学校心理学」に基づく教育実践』

【企画者】 山口豊一（聖徳大学）・小野瀬雅人（聖徳大学）

【話題提供者】 「教育心理学」の立場から 小野瀬雅人（聖徳大学）  
「学校心理学」の立場から 水野治久（大阪教育大学）  
公認心理師として実践者の立場から 半田一郎（スクールカウンセラー）

【指定討論者】 石隈利紀（東京成徳大学）

企画概要

令和元年8月4日、第2回目の「公認心理師」国家試験が実施された。この試験科目で、本学会と関係が深い科目の1つとして「教育・学校心理学」がある。この科目のテキストは、すでに2冊（水野編，2019；石隈編，2019）が刊行され、多くの国家試験受験者に利用されている。その他、今後の公刊に向けて準備中のものもある。

公認心理師のテキストの内容は、受験者の試験準備だけのものではない。今後の公認心理師の実践においても影響が大きいと思われる。例えば「教育・学校心理学」では、国家試験以前から「教育心理学」と「学校心理学」という2つの学問領域が関連するが、公認心理師が教育の場で職責を果たすためには、どのようなことを学んでおく必要があるのだろうか。

以上の問題意識を踏まえ、本シンポジウムでは、公認心理師の実践に有効な「教育・学校心理学」のコンテンツは何かについて、教育心理学や学校心理学の立場から考える機会としたい。

※ 学校心理士資格更新のポイント(B1ポイント)が取得できます。

ポイント取得の場合、遅刻や早退は認められません。

## 自主シンポジウム演題一覧

S-01 会場：1219 教室

### チーム学校の視点から組織としての心理的支援を考える —学校を中心とした心理危機事例を通して—

大野志保（大阪府立大学大学院）・柴田一匡（人間環境大学）・大山 卓（帝京平成大学）・  
水野康樹（名古屋市教育委員会子ども応援委員会）・窪田由紀（九州産業大学）

今日、行政、企業、教育現場など、あらゆる現場で起こる様々な危機に対して組織としてどう対応するかが問われている。特に子どもたちが集団生活を送る場である学校では、複雑化・多様化した生徒指導上の課題への対応や特別支援教育の充実を図るために、学校や教員が心理や福祉等の専門家と連携することが求められ、その体制整備として文部科学省は、「チームとしての学校」を提起した。

本シンポジウムでは、校内連携に課題を残した虐待への対応事例、児童養護施設と学校が連携して取組んだ施設に入所する子どもへの支援、外部専門機関と連携した特別支援学校に在籍する子どもへの支援など、学校や施設での心理危機事例を通して、危機の発生から収束に至るまでの経過の中で、組織文化や学校組織を取り巻くさまざまな環境、組織の構成員相互が、問題を抱えた当事者（子ども）にどのように関わっていたのかを明らかにし、組織としての心理的支援について議論したい。

S-02 会場：1062 教室

### 視覚の過敏症：アーレンシンドローム

#### —アーレンシンドロームの理解、ストレス・他の感覚過敏との関連性—

熊谷恵子（筑波大学人間系）・佐藤七瀬（筑波大学大学院人間総合科学研究科）・  
五十嵐千明（筑波大学大学院人間総合科学研究科）・小園侑理愛（筑波大学大学院人間総合科学研究科）・  
三井菜摘（筑波大学心理・発達教育相談室）

視覚の過敏症であるアーレンシンドロームは、特定の波長に対する感受性が過剰に高いために、羞明、文字の読み書き困難など様々な困難さが起こるものである。筑波大学心理・発達教育相談室の我々のグループでは、アーレン法を用いて、アーレンシンドロームのある人に個々適切なカラーレンズのフィッティングをおこなっており、多くの人があるカラーレンズを装着することで見え方が改善している。しかし残念ながら、日本においてアーレンシンドロームのある人への理解がまだ進んでいるとはいえない。カラーレンズを装着することに関して周囲の理解が得られず、適切な配慮がないままの状態にいる人も少なくない。今回の自主シンポジウムでは、アーレンシンドロームの相談の動向、アーレンシンドロームのある人の見え方の困難さとそれによるストレスの度合い、視覚のみならず他の感覚過敏性との関連性について、最近の知見を述べ、支援について議論したい。

## 自主シンポジウムで発表される先生方へ

会場にはプロジェクターはございますが、パソコンなどの必要機器はご持参ください。なお、資料の印刷は各自でお願いいたします。登壇者の打ち合わせには、各発表会場の教室をご利用下さい。

## ポスター発表演題一覧

12月7日(土)      **ポスター発表①**      16時00分～18時00分

※ なお、発表日時の変更希望には対応しかねますのでご容赦ください。

会場：1063 教室 (1号館 B1F)

### 【A グループ】(心理・社会面への援助)

**A-01** 松本くみ子 (お茶の水女子大学大学院)・足立正治 (都立八王子特別支援学校)・下畝地智子 (都立八王子特別支援学校)

高等部における自立に向けた家計管理に関する主体的・対話的で深い学びの実践  
—数学・職業・外部専門員による連携の事例から—

**A-02** 本多明生 (静岡理工科大学)

我が国の高等学校におけるセクシュアル・マイノリティの生徒への支援に関する実態調査

**A-03** 磯和壮太郎 (所属なし)

Sense of Coherence と特性的自己効力感の影響関係の検討

**A-04** 小澤貴史 (拓殖大学)

大学新生を対象とした調査に基づく入学時の目的意識について  
—日本人学生と外国人留学生との比較を中心として—

**A-05** 末武麻弥 (兵庫教育大学)・窪田由紀 (九州産業大学)・池田浩之 (兵庫教育大学大学院)

大学生におけるライフスキルの特徴と生活体験との関連  
—1年次生と4年次生の比較検討から—

**A-06** 桐林明咲 (名古屋大学)・松本真理子 (名古屋大学)

青年期の愛着スタイルに影響を及ぼす要因  
—重要な他者からのサポートに着目して—

**A-07** 森慎也 (大阪府立柏原東高等学校)

全ての生徒が「居場所」をもつクラスづくり  
—実践課題研究のその後—

**A-08** 山口豊一 (聖徳大学)・石川満佐育 (聖徳大学)・渋佐睦月 (聖徳大学大学院)・蓬田真依子 (聖徳大学大学院)

女子大生における学校適応に関する研究  
—援助要請行動及び居場所感に着目して—



- A-09** 渡邊香織（東京成徳大学大学院）・菊池春樹（東京成徳大学）  
発達障害児をもつ親の語りにもみる「わが子の就学」のとらえ方  
—就学先決定に着目して—
- A-10** 藤原幸子（吉備国際大学）  
いじめ予防に関連する新聞記事の分析
- A-11** 竹川佳津子（フェノール心理&発達相談室）  
子どもの転生願望  
—子どもの持つ願望と傾向—
- A-12** 坂本理香（敦賀気比高等学校）  
高校生の日常的希死感に関連する要因についての検討  
—生活習慣と心身の状況に着目して—
- A-13** 児玉翼（東京成徳大学）  
SNS を介しての中高生の性意識の検討  
—回顧法を用いたアンケート調査から—
- A-14** 大芝宝勢（東京成徳大学）  
中学校生活で孤立している生徒の特徴，二者視点での違い
- A-15** 坪井裕子（名古屋市立大学）・吉武久美（人間環境大学）・光井能麻（公益財団法人 地震予知総合研究振興会）・松本真理子（名古屋大学）・窪田由紀（九州産業大学）・森田美弥子（中部大学）  
災害後の学校における心理的支援について  
—受け入れ側のインタビューからの検討—
- A-16** 柏頼英（茨城県学校教育相談研究会）  
「ありがとう」のシャワーいっぱい今日もまた  
—Think Globally, Act Locally—
- A-17** 佐藤敦望（上越教育大学大学院）・高橋知己（上越教育大学）  
いじめ認知件数といじめ認識の関連
- A-18** Andrea Carlson（愛知県立大学）  
日本のインターナショナルスクールにおける生徒の情緒的ウェルビーイングに関する課題

## 【B グループ】（心理教育的アセスメント）

- B-01** 藤原則之（松戸市立和名ヶ谷中学校）  
中学校の学級担任に対する意欲モラルの中1から中3での推移  
—学級担任のリーダーシップと公正感を通して—
- B-02** 宮本圭子（富山大学大学院）・亀島麻衣子（富山大学大学院）・金森豊（富山大学大学院）・西裕太郎（富山大学大学院）・本村雅宏（富山県総合教育センター）石津憲一郎（富山大学）  
学校の教師は子どもの困難をどう見立てるか  
—若手教員とベテラン教員の視点の違いに着目して—
- B-03** 本間優子（新潟青陵大学）  
日本版学校肯定感・回避感（SLAQ）親評価版尺度作成の試み  
—信頼性と妥当性の検討—
- B-04** 石川満佐育（聖徳大学）・山口豊一（聖徳大学）・中井大介（愛知教育大学）  
大学院生を対象にしたインシデントプロセス法を用いた事例検討の効果の検討

## 【C グループ】（三次的援助サービス）

- C-01** 松浦正一（帝京平成大学）・石隈利紀（東京成徳大学）  
学校危機における緊急支援の研修効果に関する研究  
—支援経験による学びに焦点をあてて—
- C-02** 鶴貴美子（福岡教育大学大学院）  
通常の学級における発達に課題のある児童への合理的配慮提供の推進  
—モジュール研修による教員の指導力向上を通じて—
- C-03** 西村昭徳（東京成徳大学）  
援助チームにおけるチーム内葛藤尺度の再検討
- C-04** 梶原律子（明治学院大学）  
心理臨床技法としてのマンダラ塗り絵  
—その可能性についての探索的研究④ 大学生での効果検証—

**C-05** 宗形奈津子（千代田区教育委員会）・日野雅子（筑波大学）・相樂直子（宮城大学）・三井菜摘（筑波大学）・松井友子（筑波大学）・青島芳子（横浜市教育総合相談センター）・田村節子（東京成徳大学）・石隈利紀（東京成徳大学）

特別支援教育の校内支援システムを機能させるためには  
—小・中学校の管理職へのインタビューのKJ法を援用した分析—

**C-06** 三浦文隆（高知市立潮江小学校）

不登校の子どもの成長・発達を促進するチーム援助  
—チーム援助会議の有効性を確認するアンケート調査—

#### **【Dグループ】（4種類のヘルパー）**

**D-01** 松岡靖子（川村学園女子大学）・深澤静（学校法人野田鎌田学園）・宮崎汐莉（学校法人野田鎌田学園）・大迫元祐希（学校法人野田鎌田学園）

常勤職員型スクールカウンセラーによる行事参加の課題  
—ある通学型通信制高校における実践から—

**D-02** 今下美月（名古屋大学）・松本真理子（名古屋大学）

中学生におけるスクールカウンセラーに対する援助要請の抑制要因  
—自己スティグマに着目して—

**D-03** 吉田恵子（高崎健康福祉大学）

学校の管理下の事故と学校心理士の役割  
—特別支援学校の事故をめぐって—

**D-04** 近藤昌樹（上越教育大学大学院）・高橋知己（上越教育大学）

教師に対する援助要請を抑制する阻害要因の検討  
—いじめ場面に着目して—

**D-05** 茅野理恵（信州大学）・山木柚子（栃木県立リハビリテーションセンター）・飯田順子（筑波大学）・五十嵐哲也（兵庫教育大学）

教職への動機づけ尺度の作成および信頼性・妥当性の検討  
—自己決定理論の枠組みに基づいて—

**D-06** 酒井麻紀子（名古屋大学大学院）・窪田由紀（九州産業大学）

小学校教師が直面する困難に関する原因帰属の特徴  
—仮想場面を用いた自由記述の分析から—

**D-07** 山木柚子（地方独立行政法人栃木県立リハビリテーションセンター）・茅野理恵（信州大学）・  
飯田順子（筑波大学）・五十嵐哲也（兵庫教育大学）  
教職志望学生の教職への動機づけとイラショナル・ビリーフとの関連

**D-08** 石田俊樹（上越教育大学大学院）・高橋知己（上越教育大学）  
現職教員が考えるいじめの発見方法と第三者委員会が作成した報告書の比較

**12月8日（日） ポスター発表② 14時00分～16時00分**

※ なお、発表日時の変更希望には対応しかねますのでご容赦ください。

会場：1063 教室（1号館 B1F）

**【Eグループ】（一次的援助サービス）**

**E-01** 平井陽伸（筑後市立羽犬塚小学校）・西山久子（福岡教育大学大学院）  
ピア・サポート(PS)プログラムを取り入れた  
よりよい人間関係を築く学級集団づくりの研究  
—児童の関わり合う力と若年層教諭の指導力の向上に着目して—

**E-02** 寺坂明子（大阪教育大学）  
能動的な学級経営法のトレーニングとその効果  
—教員養成課程の学生を対象に—

**E-03** 佐竹真由子（福岡教育大学教職大学院）・小泉令三（福岡教育大学大学院）  
中学校における不登校の未然防止の取組  
—SEL-8S プログラムを使った社会的能力の向上を通して—

**E-04** 田崎さより（横浜市立小学校）・安藤智子（筑波大学）  
児童と担任教師・養育者との関係が主体的・協働的な学びに与える影響

**E-05** 小瀧雄基（鈴鹿市立稲生小学校）・瀬戸美奈子（三重大学）  
教師と保護者の連携につながる学級経営の研究  
—学級通信に着目して—

- E-06** 相樂直子（宮城大学）・五味祐子（筑波大学附属高等学校）  
高校におけるメンタルヘルスリテラシー教育に関する検討
- E-07** 梅野智美（龍谷大学大学院）  
高校生のレジリエンス育成を目的とした心理教育プログラム
- E-08** 石井雄大（上越教育大学大学院）・品田ゆき子（伊勢崎市立坂東小学校）・高橋知己（上越教育大学）  
学級集団変容をアセスメントするための SCT の活用(2)
- E-09** 原田恵理子（東京情報大学）・本田真大（北海道教育大学）・渡辺弥生（法政大学）  
学校危機予防における認識の実態（1）  
—学校長による認識—
- E-10** 山崎沙織（鳥取県教育委員会）・飯田順子（筑波大学人間系）  
高等学校における新入生への心理教育の実践（2）
- E-11** 本田真大（北海道教育大学）・原田恵理子（東京情報大学）・渡辺弥生（法政大学）  
学校危機予防における認識の実態（2）  
—学校長と生徒指導担当教諭の比較—
- E-12** 家近早苗（大阪教育大学）・餅木哲郎（大阪教育大学）  
道徳と特別活動を活かした「いじめ予防プログラム  
（グリーン・ハート・スクールプログラム）」の試みⅡ

#### **【F グループ】（学習面への援助）**

- F-01** 早坂太志（上越教育大学大学院）・高橋知己（上越教育大学）  
教育大学学生の総合的な学習の時間における指導意識について
- F-02** 柏原志保（広島大学大学院）・小澤郁美（広島大学大学院）  
認知カウンセリングが小中学生の学習に対する認知に及ぼす効果  
—自由記述を用いた検討—
- F-03** 兒玉裕巳（筑波大学大学院）・外山美樹（筑波大学）  
態度の視点を取り入れた学習相談プロセスシートの作成

**F-04** 丸山貴則（上越教育大学大学院）・高橋知己（上越教育大学）  
合唱コンクールから見る集団活動における教師の介入の在り方

**F-05** 酒井茂樹（社会福祉法人むつみ会）  
母親や教員に対する母子生活支援施設周知に関する一考察  
—TAE（Thinking At the Edge）ステップ式質的研究法を用いて—

**F-06** 金子紗枝子（徳島文理大学）・岡直樹（徳島文理大学）  
認知カウンセリングへの参加が教職志望大学生に及ぼす影響

**F-07** 熊谷恵子（筑波大学）・佐藤七瀬（筑波大学大学院）・新井里依（筑波大学心理・発達教育相談室）・角田茉里恵（筑波大学心理・発達教育相談室）  
視覚の過敏症（アーレンシンドローム）のカラーレンズによる視機能の改善度  
—近方視力，色覚，立体視に焦点を当てて—

#### **【G グループ】（進路面への援助）**

**G-01** 宮本直美（大阪千代田短期大学）・吉井英博（大阪千代田短期大学）・木野仁美（大阪千代田短期大学）  
保育現場で求められる基盤スキルにおける学生の自己評価（第1報）  
—保育者を目指す学生の実態から—

**G-02** 嶋拓哉（上越教育大学大学院）・高橋知己（上越教育大学）  
職場体験学習における受け入れ事業所側の取組についての一考察

#### **【H グループ】（健康面への援助）**

**H-01** 茂呂輝夫（茨城県立結城第一高等学校）・棚谷克彦（茨城県立結城第一高等学校）  
体験活動によるソーシャルスキルの育成  
—生徒を対象としたツリーイングの効果検証—

**H-02** 松浦渉（名古屋大学大学院）  
大学生における強迫性格と友人関係における困難との関連

- H-03** 小湊祐輔（上越教育大学大学院）・高橋知己（上越教育大学）  
教師のメンタルヘルスと援助要請行動の関連の検討
- H-04** 田中英子（早稲田大学大学院）  
定期テスト及び試合前の望ましい食習慣  
—対話を通じた朝食の重要性の再認識—
- H-05** 中嶋清之（静岡県立伊東高等学校）  
高校野球部員における学校生活スキルと心理的競技能力との関連
- H-06** 平田裕美（女子栄養大学）  
中学生・高校生の偏食傾向とストレスマネジメント、および学校生活満足度との関連

### 【Iグループ】（コンサルテーション）

- I-01** 中村雅司（福岡教育大学大学院）・脇田哲郎（福岡教育大学教育実践講座）  
教師の抵抗感を減らすキャリア教育推進に向けた研究  
—教員の意識調査を通して—
- I-02** 楠本和歌子（立命館大学大学院）  
僻地における教師とSCの効果的連携に向けたアクションリサーチ（1）  
—現場で生じている問題の可視化と共有のプロセス—
- I-03** 橋本博文（安田女子大学）・前田楓（安田女子大学大学院）  
学校組織の風土の可視化（1）  
—社会的環境要因としての学校組織の特性の査定を目指した尺度の作成—
- I-04** 阿津坂理沙（大阪市立泉尾工業高校）・家近早苗（大阪教育大学大学院）  
工業高校における教員間の連携を促進する取り組み  
—学年会を活用して—
- I-05** 前田楓（安田女子大学大学院）・橋本博文（安田女子大学）  
学校組織の風土の可視化（2）  
—尺度の信頼性・妥当性の検討—

I-06 浅野浩子（白鳳短期大学）  
担任とスクールカウンセラーの協働の実践効果に関する予備的検討  
—学級担任が感じる心理的負担感の変化の分析から—

I-07 松浦秩保子（常葉大学附属たちばな幼稚園）・東原文子（聖徳大学）  
新人保育者の絵本読み場面における成長過程  
—振り返りミーティングを通して—

I-08 平山いづみ（大阪教育大学）・家近早苗（大阪教育大学）  
特別支援教育コーディネーターができる学級担任支援の役割  
—学級での支援と学年での支援をもとに—

### ポスター発表で発表される先生方へ

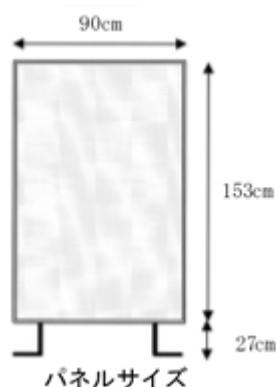
<ポスター発表のパネルについて>

ポスターのサイズは（A0：841mm×1189mm）に収まるようにご準備ください（パネルの大きさは下図の通りとなります。）。

また1メートルくらい離れても見えるように大きな文字で作成ください。貼り付けに必要な画鋸、テープはこちらで用意します。

ポスターは開始30分前から掲示可能です。

また、終了後速やかにポスターは外してください。30分を経過しても貼り付けているポスターは実行委員会で処分します。





## 7. 大会参加費について

当日申し込み：10月26日（土）以降は当日申し込み扱いとなります。

	会 員	非会員	学校心理士・後援団体の方
一 般	7,000円	8,000円	7,000円
大学院生	4,000円	5,000円	4,000円
学部学生	2,000円		

参加申し込みについて以下の点にご注意下さい

※抄録集や参加証・名札は大会当日に受付で配布いたします

※学校心理士・後援団体の方は会員扱いとなります。ただし、日本スクールカウンセリング協議会の方はガイダンスカウンセラーの方のみ会員扱いとなります。

### 情報交換会費

事前申し込み	4,000 円	当日申し込み	5,000 円
--------	---------	--------	---------

※ 情報交換会のみでの参加はできません。

※ 10月26日（土）以降は当日申し込み扱いとなります。

## 8. 大会参加及び発表申し込みに関するお問い合わせについて

※ 大会参加・発表申込についての今後の詳しい情報につきましては、学会ホームページに順次アップしていく予定ですのでご確認ください。

日本学校心理学会 <http://schoolpsychology.jp/>

また、今回は本学会の会員管理業務等で契約をしております国際文献社に委託し、ヘルプデスクを設けましたので、ご不明な点がございましたらお気軽にお問い合わせください。

日本学校心理学会大会ヘルプデスク

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター

Eメール [jsp-desk@kokusaibunken.jp](mailto:jsp-desk@kokusaibunken.jp)